

Pickup!① 佐須地区住民の長年の願いが叶う

2月14日、強風の中佐須響心会と佐須中学校の生徒達の太鼓の演奏を皮切りに主要地方道棧原小茂田線「佐須坂トンネル」の開通式が行われました。佐須坂トンネルは、島内50本目のトンネルで全長1,867mと対馬島内で一番長く、県内の県管理トンネルでも4番目の長さのトンネルになります。総事業費約44億円（トンネル部分約31億円）で延長約7.4km、時間にして約17分短縮され、棧原から小茂田までの安全で快適な通行が可能なバイパス道路として、住民生活・救急医療や観光客の利便性の向上が大いに期待されます。



豊かな表現力で!!

Pickup!②

2月21日、対馬市公会堂で第15回対馬少年の主張大会が行われました。市内各地区の予選を勝ち抜いた10名の中学生が参加したこの大会は、司会を務めた豊玉中の生徒を含め全員が、滑舌の良い口調で堂々とした発表を行いました。

【結果は以下の通り】

- 最優秀賞…高崎 樹くん（厳原中2年）「彼女達と僕と」※21ページに掲載 写真中央
優 秀 賞…小島 志織さん（大船越中2年）「思いやり」写真左
優 秀 賞…梅野 末世さん（豊玉中2年）「私の考える『平和への近道』」写真右
「社会を明るくする運動」長崎県弁論大会 対馬市代表
初村 憲香さん（佐須中2年）「輝きであふれる社会」



※最優秀賞の高崎樹くんは、平成28年度長崎県少年の主張大会に、初村憲香さんは「社会を明るくする運動」長崎県弁論大会の対馬市代表として出場します。

島の宝を掘り起こす 島おこし協働隊は 常にポジティブ！

文化財・農林業・有害鳥獣・商店街・観光・教育など

対馬が直面している課題は多岐にわたります。

その課題解決のために、専門的な知識や技術

そして誰にも負けないアツい想いを抱き

対馬に移り住んできたのが島おこし協働隊。

任期は3年でこれまでに16人が在籍、

現在11人の隊員が日々奮闘しています。

行政感覚と市民感覚をバランスよく

合わせもつのも彼らの武器。

そして彼らは言います「対馬は宝の島」。

身近なことから壮大なビジョンまで

話し始めると止まらないポジティブ集団、

島おこし協働隊はみなさんとの繋がりを待っています。



ありがとう！今年度2期生3名が協働隊を卒業

民間伝承保全担当

細貝 瑞季さん



地域づくり

は人づくりを
信念に民間伝
承保全を教育
の観点からア
プローチ。小

中高校での総合学習の支援や「夏休み子ども寺子屋」「学び舎つしま」といった自主学習スペースをスタートさせ、地域を知りたい子ども達の意欲を育てた。

教育は地域の未来を創る土台です。島を引き継いでいく人が育たなければ、この地に息づいてきた文化も途絶えてしまうと考え、教育面に特化して取り組みを行ってきました。学校における総合的な学習で地域のことを探求できる時間を増やすことや、学校外で地域の魅力に気がつくことができる機会の提供など、小さなことをみなさんと積み上げることができたと考えています。答えのない時代を生き抜くには、多様な価値観と視点が必要です。そのためには、今何ができるか考えること、その一歩を子どもたちに伝えてきました。芽がでるかはこの頃から。「島から出ていくな」という教育だけではなく、出て行ったらそれっきりにならない「人を育てる」ところが今後の対馬にとって意味があるはず。日本の他のどことも違う歴史のひだの深さや一級品の食海と山両方の知恵を持った人々が対馬にはいます。今後は東京で国際協力の仕事に就きますが、これからも対馬のために出来ることを模索していきます。

獣害を黙財へ！有害鳥獣の資源化をコーディネート

トした新産業の創出や、市民らによる捕獲隊の結成を進めるなど地域の自助努力による農林業被害の軽減を目指した。また肉の加工品開発、レザークラフト講座も積極的に展開し、多様な視点から市民にアプローチした。

住民が捕獲隊を結成し「みんなで集まればなんだから楽しいね！」そんな地域コミュニティからの被害対策を進めた上県町女連地区との出会いは、特に印象的で私の目指すところとなりました。「対馬」という大きな単位になるとなかなかイメージがしにくけれど、身の回りのことに置き換え、自分にとっての幸せとは何か？豊かさとは何か？大事にしたいものは何か？をポジティブにとらえ、どんなに小さなことでも行動に起こして欲しいです。「島の宝」を宝と感じるかそうじゃないと思うかは人の気持ち次第で、あきらめてしまつては何も起こりません。若い人たちが「やりたい」と思うことにチャレンジし、地域の方はそれを「ダメだ」というのではなく「応援する」という前向きな心の動きになればもっと良くなると思うのです。今年1月に会社を立ち上げたので、今後

も対馬に残り一民間企業としてイノシシやシカを通じた島おこし活動を続けていきます。



有害鳥獣ビジネス

コーディネーター

谷川 ももこさん

生物多様性保全担当

伊藤 (内山) 麻子さん



自然と共生

してきた暮らしの技術や景観を守り次世代に繋げようと、内山分校を拠点とした体験教室「内山で遊ぼう」や生態系に配慮した農作物栽培などに取り組んだ。昨年内山地区の男性と結婚。

「内山で遊ぼう」で知り合った洋裁の先生に教わりながら、対馬の草木で染めた布でウエディングドレスを手作りした結婚式が一番の思い出です。対馬は「暮らしていくこと」が楽しい島。夕食の魚を釣ったり、最先端の口ケツト竈でご飯を炊いたり、灰を畑にまいたり、藁で鍋を洗ったり、炭俵を編んでみたり、山水を引いてきたり、せんだんごを作ってみたり…。気がつけば、縄文時代からこのようにして暮らしてきたのかなーというロマンに浸っていました。書物だけではなく、実体験としていろいろと学べる暮らしの楽しさが魅力です。

私は一人ひとりの一次産業に関わる時間が増えることで島の地域おこしができると思っています。ひきつづき内山に住みます。当分は「こだわりを持った農家+加工業者」として生活しながら対馬の貴重な植物の栽培も続けていきます。「内山で遊ぼう」はこれからも続けていきますのでよろしくお願ひいたします。

引き続きよろしくお願ひします

さとう ゆうじ
佐藤 雄二 (第3期生 神奈川県出身)

○島の食材プロフェッショナル
魅力ある食材や料理の発掘!自家米のどぶろく作りを支援します。

対馬ならではの食材・料理の取材、情報発信。「よりあい処つしま」や「ふれあい処つしま」での販売を通じた既存商品の改良や品質向上に取り組んでいる。観光物産協会インターネット販売の立ち上げや「どぶろく特区」を活用し農家の酒造支援にも取り組んでいる。

よしとみ りょう
吉富 諒 (第3期生 東京都出身)

○島の森林再生マネージャー
舟志ノ内の山林を活かせ!対馬の森のコンシェルジュはツリーハウスを計画中。

ツシマヤマネコをはじめとする対馬特有の生態系の保全と山林資源の経済的価値と教育への利用を目指している。また対馬産の農林水産物の価値創造のため対馬と都市を結ぶワークショップやイベントへの協力を行い、対馬ファンの拡大に努めている。バイオマスによるライフスタイルの実現も視野に。

たるなが あきのり
垂永 晶憲 (第4期生 福岡県出身)

○対馬農協・島のもん魅力発信デザイナー
対州そば・対馬しいたけの販路拡大と農業の振興。対馬産農産物の魅力の伝道師になる!

対馬の農産物に関する情報収集や島外デパート等での農産物のPRのほか、27年から始まった地理的表示法に「対州そば」を登録するための資料作成・申請を行った。他の品種と交配しやすい対州そばを守るため、在来の蕎麦の種子を取り寄せ栽培。「種の保存」を行っている。

みずの としゆき
水野 敏幸 (第4期生 滋賀県出身)

○島の循環型農法推進プランナー
目指すは島内完全循環!世界に誇る堆肥プランを模索中。

対馬の作物に適した堆肥の調整・試験や栽培実験を行う他、養殖マグロの残渣の堆肥化についての検討も進めている。また、農業をテーマにした総合学習プログラムを教育委員会と共同で作成した。対馬の歴史の奥深さにも着目し島外への魅力発信の重要性も訴える。



はまくち よしのり
濱口 義典 (第3期生 大阪府出身)

○島のタウンマネージャー
厳原川端通りの再生を目指す!商店街の賑わい仕掛け人。

厳原町中心部の商店街の現状分析と課題の整理に向けて、事業所の訪問や組織化支援を行っている。特に川端通りの賑わいを取り戻すための組織「対馬川端のれん会」を設立。美観維持のため清掃や植栽などを関係機関と協力して行った。

おおさわ しん
大澤 信 (第4期生 埼玉県出身)

○つしまミュージアム・プロモーター
いよいよ始まる博物館建設。仏像の魅力語りせたら止まらない。

博物館建設計画を発信するためのシンポジウムや講演、市民向けの仏像の展示解説や本物の文化財を用いた出前授業を行った。28年度は対馬の文化財リストを作成するための調査を予定。29年夏には九州国立博物館での「対馬展」開催を計画している。

たかた
高田 あゆみ (第4期生 東京都出身)

○つしまミュージアム・プロモーター
いよいよはじまる博物館建設。市民が主役の博物館運営プランを作るのだ!

市民参加の仕組みづくりに取り組んでいる。市民アンケートによる現状の把握。市内3か所でのシンポジウム開催やPR活動を行ってきた。市民が積極的に参加できる博物館の運営の在り方を考え、博物館の運営に関わる人材を発掘中。

すぎた こうへい
杉田 洸平 (第4期生 大阪府出身)

○域学連携教育コーディネーター
地域づくりに大学のノウハウを活かす!学生と地域のパイプ役は元学校の先生です。

国内の色々な大学から対馬にやってくる大学生が地域の課題を解決するお手伝い。特に大学生が地域に入って子どもたちと一緒に勉強したり遊んだりする「夏休み子ども寺子屋」を5か所で担当。子どもたちが勉強しやすい環境を提供している。